

○ワークショップ 「観光経済学」

開催責任者 経営学部 赤壁弘康
南川和充
2018年3月17日
3月18日
南山大学 Q棟 5階会議室



ワークショップは以下のとおり、開催された。

◇研究目標

今回はとくに、①観光客誘致、②経済効果、に関する理論的・実証的検討を研究目標として開催された。

◇報告者および題目

3月17日（土）

1. 水野英雄（椋山女学園大学現代マネジメント学部）、鶴田利恵（四日市大学総合政策学部）、平野宜行（JTB 中部本社営業部）
「地方港へのクルーズ客船の寄港の経済効果－四日市港でのアンケート調査による考察－」

2. 深見 聡（長崎大学環境科学部）
「長崎観光における軍艦島とは一錯綜する"まなざし"の行方―」
3. 江口善章（兵庫県立大学環境人間学部）
「遺跡展示施設の最適立地についての定性的考察―他方の遺跡訪問者を取り込む場合」
4. 功刀祐之（早稲田大学政治経済学術院）
「観光客数と社会資本の関係について-離島データを用いた分析-」
(→当日報告者急病のため不参加につき取り止めとなった。)

3月18日（日）

1. 加藤淳一（久留米大学商学部）
「新規観光都市市場開拓のための質問紙調査に向けての試論」
2. 竹内啓仁（知多市役所・愛知大学経営総合科学研究所）、神頭広好（愛知大学経営学部）
「駅勢力圏とレジャー圏」
3. 長原 徹（芝浦工業大学工学部）
「応用一般均衡モデルを用いた観光の経済効果計測に関する一考察」

◇ワークショップの討論内容

研究目標に沿って得られた研究成果について、以下では3件の概要を示す。

・水野・鶴田・平野報告

最近地方が誘致をしていることによって急増している外航クルーズ客船の地方港への寄港の動向を紹介するとともに、こうしたクルーズ客船の寄港による経済効果を、四日市港への寄港の（乗客・乗員への）アンケート調査に基づいて考察している。クルーズ客船が寄港すれば「中国人の爆買いで地元は大いに儲かる。（クルーズ神話、クルーズ都市伝説）」は本当かどうかについて、消費支出額等から経済波及効果を推計することと、県内外の観光地にどのような人の流れがあるかを分析することによって明らかにした。分析により、①消費支出はそれほど大きくはない、②交通の便が良いためにオプションツアーに参加しなくても伊勢神宮などの観光地を訪問できている、③交通の便が良いために名古屋等の県外へも流出している、④四日市港は観光地として選ばれたというよりも名古屋港寄港の代替地（港）と考えられている、という結論が得られた。（なお、本研究における見解は研究者の所属する組織の見解ではなく、また、現時点では共同研究者間でも見解の相違のある事項を含んでいる。）

・深見報告

「明治日本の産業革命遺産」の構成資産のなかでも、観光客の増加傾向が著しい軍艦島を対象として、世界遺産登録に至る過程と、実際に観光客の増加していく過程でみられる

課題について、ポリティクスの視点から論じている。報告ではまず、韓国政府との調整が難航した（朝鮮出身者の徴用など厳しい足跡の地である「負の遺産」としての記憶を留める点を検討すること）ことなど、軍艦島の世界遺産登録の経緯が整理された。次に、軍艦島を訪れる観光客の増加（近年はとくに韓国人客の増加が顕著）とその背景が各種統計により示された。そして、2017年7月に公開された韓国映画『軍艦島』がもたらしたポリティクスの側面について、日韓の新聞記事に依拠しつつ考察がなされた。徴用は過酷な炭坑労働環境(落盤や火災といった労働災害など)という影だけでなく、キリスト教徒の祈りをつなぐ苦難の歩みといった光の側面もあるという。「負の遺産」をめぐるこうした多面性の認識をゲストとホストが深めていくうえでダークツーリズムという「見せ方」は有用であるとし、これによりポリティクスの緩衝作用が期待され、対象となる世界遺産観光をより深みをもったものへと昇華させる可能性がある」と主張している。

・加藤報告

経営の分野で広く知られているブルー・オーシャン戦略という新規市場の開拓の発想と手順を下敷きにして、ブログ記事の分析と質問紙調査により新規市場開拓の手順の試論を示している。まず、ブログ記事から消費者ニーズを解明する手順として、(1)ブログ記事の収集、(2)ブロガーの分割（市場セグメンテーション）基準（単語群）の選択、(3)および(4)ステップ2の基準（単語群）を用いたブロガーの分割、そして(5)ブロガーを捉える主成分軸の抽出、の5つのステップを提示している。この主成分軸が、解明すべき消費者ニーズであるとされ、複数の都市への消費者ニーズの近さを定義したうえで、その近さを都市間の競合の程度として競合都市を特定する方法が説明された。次に、ブルー・オーシャン戦略（増加、創造、削除、あるいは減少）と質問紙調査との対応関係が説明され、戦略キャンバスに価値曲線を描く方法の概要が示された。最後に、今後適切か否か不明確なままの手順の詳細な吟味と、実行方法が未確定なところの方法の確定とをしなければならぬといった課題が残されていると述べられた。

◇研究成果発表

水野英雄、「アジアにおけるクルーズ市場の拡大による外航クルーズ客船の日本への寄港のクラスター分析」、椙山女学園大学研究論集 第48号(社会科学篇)、pp.121-130、2017年。

深見 聡・沈 智炫、「世界遺産観光とポリティクス：軍艦島の事例から考える」、日本観光研究学会全国大会学術論文集32、pp.233-236、2017年12月。

深見 聡、「『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』とダークツーリズム：ゲストとホストの邂逅の視点から」、観光学評論5(2)、観光学術学会、pp.185-196、2017年。